

＜福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ＞
(3月24日 午前11時30分現在)

平成23年3月24日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所は全号機（1～6号機）停止しております。

1号機（停止中）

- ・ 原子炉は停止しておりますが、3月12日午後3時36分頃、直下型の大きな揺れが発生し、1号機付近で大きな音があり白煙が発生しました。水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月23日午前2時30分頃、給水系から原子炉への海水注入を開始しました。
- ・ 3月24日午前10時50分頃、原子炉建屋屋根部から白いもや状の湯気が出ていることを確認しました。
- ・ 3月24日午前11時30分頃、中央制御室の照明が点灯しました。
- ・ 引き続き原子炉への海水注入を実施しております。

2号機（停止中）

- ・ 原子炉は停止しており、原子炉隔離時冷却系の停止により、原子炉水位が低下、原子炉圧力が上昇しました。原子炉格納容器内の圧力を降下させる措置を行ったこと、原子炉内に海水を注水したことから、原子炉水位や原子炉圧力は回復。
- ・ 3月15日午前6時頃に圧力抑制室付近で異音が発生、同室の圧力が低下。
- ・ 3月21日午後6時20分頃、原子炉建屋屋根部から白いもや状の煙が発生しましたが、3月22日午前7時11分時点でほとんど見えない状態まで減少していることを確認しました。
- ・ 引き続き原子炉への海水注入を実施しております。

3号機（停止中）

- ・ 原子炉は停止しておりますが、3月14日午前11時1分頃、1号機同様大きな音とともに白煙が発生したことから、水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月16日午前8時30分頃、原子炉建屋から水蒸気のようなもやの発生を確認。
- ・ 3月17日午前6時15分頃より、圧力抑制室の圧力の指示値が上昇していることから、安全に万全を期すため、3月20日、原子炉格納容器内の圧力を降下させる措置（放射性物質を含む空気の一部外部への放出）を行う準備を進めていましたが、現在の状態は、直ちに放出を必要とする状況ではないため、今後、圧力の状態などを注視してまいります。
- ・ 3月21日午後4時頃、原子炉建屋からやや灰色がかった煙が発生しましたが、3月22日時点で白みがかった煙に変化しており、終息に向かいました。
- ・ 3月22日午後10時45分頃、中央制御室の照明が点灯しました。
- ・ 3月23日午後4時20分頃、原子炉建屋から黒色がかった煙が発生していることを確認しました。その後、午後11時30分頃並びに本日午前4時50分頃に、当社社員が煙の発生が止んでいることを確認しました。
- ・ 引き続き原子炉への海水注入を実施しております。

4号機（定期検査で停止中）

- ・ 原子炉は停止しておりますが、3月15日午前6時頃、大きな音が発生し、原子炉建屋5階屋根付近に損傷を確認。
- ・ 3月15日、16日にそれぞれ原子炉建屋4階北西部付近において、出火を確認し、消防署等へ連絡しましたが、いずれも自然に火が消えていることを当社社員が確認。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないと考えております。

5号機（定期検査で停止中）

- ・ 原子炉は停止しており、安全上の問題がない原子炉水位を確保しております。
- ・ 3月19日午前5時、残留熱除去系ポンプ（C）を起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないと考えております。
- ・ 3月20日午後2時30分、原子炉は冷温停止状態となりましたが、その後、3月23日午後5時24分ごろ、仮設の残留熱除去系海水ポンプの電源を切り替えた際、自動停止しました。現在、ポンプの修理を行っております。

6号機（定期検査で停止中）

- ・ 原子炉は停止しており、安全上の問題がない原子炉水位を確保しております。
- ・ 非常用ディーゼル発電機（A）の修理が完了しました。
- ・ 3月19日午後10時14分頃、残留熱除去系ポンプ（B）を起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないと考えております。
- ・ 3月20日午後7時27分、原子炉は冷温停止状態となりました。

本日の使用済燃料プールの冷却作業

- ・ 午前5時35分頃から、3号機の使用済燃料プールに、燃料プール冷却材浄化系を用いた海水の注入を開始しました。
- ・ 今後も使用済燃料プールの状況を確認しながら、他号機も含めて準備が整い次第、放水したいと考えております。

負傷者等

- ・ 地震発生当初、発電所構内において協力企業作業員2名に負傷が発生し、病院に搬送（3月11日発生）
- ・ 当社社員2名が現場において、所在不明（3月11日発生）
- ・ 当社社員1名が左胸を押さえて立てない状態であったため、病院へ搬送（3月12日発生）
- ・ 1号機付近で大きな音があり白煙が発生した際に4名が負傷し、病院へ搬送（3月12日発生）
- ・ 免震重要棟近傍にいた協力企業作業員1名の意識がないため、病院へ搬送（3月12日発生）
- ・ 原子炉建屋内で作業していた当社社員1名の線量が100mSvを超過し、病院へ搬送（3月12日発生）

- ・ 当社社員 2 名が 1、2 号機中央制御室での全面マスク着用作業中に不調を訴え、福島第二原子力発電所へ搬送（3 月 13 日発生）
- ・ 3 号機付近で大きな音があり白煙が発生した際に 11 名が負傷し、福島第二原子力発電所等へ搬送。そのうちの 1 名を病院へ搬送（3 月 14 日発生）
- ・ 3 月 22 日午後 10 時頃、共用プールで仮設電源盤設置作業中の作業員 1 名が負傷し、産業医のいる福島第二原子力発電所へ搬送
- ・ 3 月 23 日午前 1 時 30 分頃、共用プールで仮設電源盤搬送作業中の作業員 1 名が負傷し、産業医のいる福島第二原子力発電所へ搬送

その他

- ・ モニタリングカーによる発電所構内（屋外）の放射性物質（ヨウ素等）の測定値が通常値より上昇しており、以下のとおり、原子力災害対策特別措置法第 15 条第 1 項の規定に基づく特定事象（敷地境界放射線量異常上昇）が発生したと判断しています。
 - ・ 3 月 12 日午後 4 時 17 分に判断（MP 4 付近）
 - ・ 3 月 13 日午前 8 時 56 分に判断（MP 4 付近）
 - ・ 3 月 13 日午後 2 時 15 分に判断（MP 4 付近）
 - ・ 3 月 14 日午前 3 時 50 分に判断（MP 6 付近）
 - ・ 3 月 14 日午前 4 時 15 分に判断（MP 2 付近）
 - ・ 3 月 14 日午前 9 時 27 分に判断（MP 3 付近）
 - ・ 3 月 14 日午後 9 時 37 分に判断（発電所正門付近）
 - ・ 3 月 15 日午前 6 時 51 分に判断（発電所正門付近）
 - ・ 3 月 15 日午前 8 時 11 分に判断（発電所正門付近）
 - ・ 3 月 15 日午後 4 時 17 分に判断（発電所正門付近）
 - ・ 3 月 15 日午後 11 時 5 分に判断（発電所正門付近）
 - ・ 3 月 19 日午前 8 時 58 分に判断（MP 5 付近）

なお、測定値が $500 \mu\text{Sv/h}$ を超過した後、 $500 \mu\text{Sv/h}$ 付近で下降、上昇を繰り返した場合、同一事象が継続していると考え、改めて原子力災害対策特別措置法第 15 条第 1 項の規定に基づく特定事象（敷地境界放射線量異常上昇）が発生したという判断は行わないこととします。ただし明らかに異常な値が計測され、同一事象でないことが明らかな場合は、速やかに判断するとともにお知らせしてまいります。
- ・ 放射性物質放出の恐れがあるため、半径 20 k m 以内の地域住民に対して国から避難指示が出されており、また半径 20 k m から 30 k m までは屋内待避指示が出されています。
- ・ 3 月 15 日午前 10 時頃、3 号機原子炉建屋内陸側で 400mSv/h が確認され、4 号機原子炉建屋内陸側で 100mSv/h が確認されました。
- ・ 共用プールの使用済燃料の保管状況を確認したところ、水位は確保されており、今後詳細に点検します。
- ・ 3 月 21 日午前 10 時 37 分から共用プールへの水の注水を開始し、同日午後 3 時 30 分頃終了しました。（当社実施）
- ・ 乾式キャスク建屋のパトロールを実施したところ、外観目視点検の結果異常はなく、今後詳細に点検します。
- ・ 5、6 号機の原子炉建屋屋根部に、水素ガスの滞留防止のための穴（3 箇所）を開けました。
- ・ 使用済燃料プールへの放水および原子炉への注水に使用している消防車は、東京消防

庁の他にも各地消防本部*から計12台の貸与を受けております。

* 郡山地方広域消防組合消防本部、いわき市消防本部、須賀川地方広域消防本部、米沢市消防本部、会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部、宇都宮市消防局、さいたま市消防局、新潟市消防局

- ・ 3月22日までに1～6号機の外部電源の受電を開始しました。
- ・ 安全の確保に向け全力を尽くしてまいるとともに、引き続き周辺環境のモニタリングを継続・監視してまいります。

以 上